

時代を紡いだ先哲

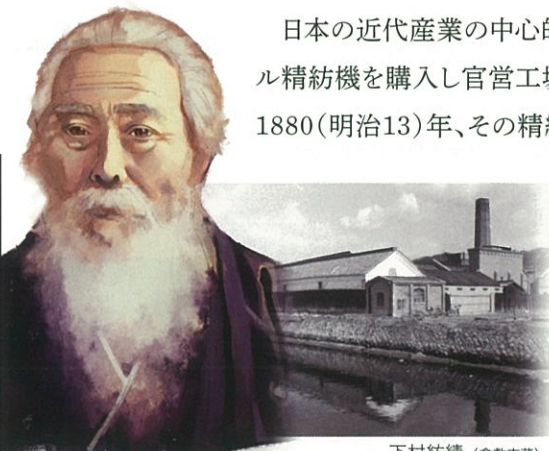
● 令和3年2月18日(木) 開場13:30 開演14:00

● 能楽堂ホール tenjin9 (テンジンナイン)
(RSKイノベティブ・メディアセンター / 岡山市北区天神町)

● 入場料 1,000円(資料代含む)



渾大防益三郎
こんだいぼう
ますきぶろう



下村紡績 (倉敷市蔵)

日本の近代産業の中心的役割は綿紡績業が担ってきた。明治政府は1878年、イギリスからミュール精紡機を購入し官営工場と民間に払い下げた。児島郡下村(現倉敷市児島)の渾大防益三郎は1880(明治13)年、その精紡機を買い入れ、いわゆる「十基紡」に名乗りをあげた。日本初の民間紡績・下村紡績所の誕生である。その8年後、倉敷村(現倉敷市)の大地主大原孝四郎が最新の高性能リング精紡機を導入して倉敷紡績所を創設。倉敷紡績、クラレの礎を創ることになる。

渾大防は家業の製塩業から紡績、金融、製錬などに組み
込んだほか、児島養

貝社を興し、瀬戸内海における養殖業の先覚者となった。孝四郎から孫三郎、總一郎と三代にわたって倉敷紡績の社長を務めた大原家は、工業(紡績)、農業、医療、文化、芸術などの振興にも大きな功績を残した。

シンポジウムでは3人の研究者が紡績業の起業と発展、また倉敷がなぜ、次世代の産業の起点となったのか、渾大防と大原がどんな舵取りをしたのかを解き明かす。



大原孝四郎
おおはら
こうしろう

倉敷紡績 旧倉敷工場 (倉敷紡績蔵)

募集人員 80人

新型コロナウイルスの感染状況によって人数は前後する可能性があります。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

- ▶ シンポジウム及び入場時に感染防止対応を実施させていただきます。(一例)
- * 来場者のマスクの義務化(各自ご持参ください)
- * 37.5度以上の熱のある方、喉などに違和感のある方は入館を禁止(同居家族を含む)
- * 2週間以内の海外渡航歴及び風邪などの発熱や味覚障害等の症状があった方の入館を禁止(同居家族を含む)
- * 入場時に体温チェック・アルコール消毒の実施及び問診票の記入をお願いします。
- ▶ 上記の禁止事項や運営スタッフの指示に従わない場合、入場をお断りします。
- ▶ その他詳しくは、参加可否通知書に記載します。

Fax申し込みはこの用紙のままお申し込みください。ハガキ、e-mailでも受け付けます。

令和3年1月25日(月) 必着

お名前(企業名・団体名) _____

〒

ご住所 _____

ご連絡先(電話など) _____

◆ 申し込みは1枚(1回)につき1人としてします。(複数応募不可)

fax 086-225-5046

◆ e-mail sanyohoso-zaidan@rsk.co.jp

◆ ハガキ宛先

〒700-8580

RSK山陽放送内(公財)山陽放送学術文化・スポーツ振興財団

◆ ハガキ、e-mailでお申し込みの際は、参加希望の開催日又はタイトルを必ずご記入ください。

「参加可否」は郵便でお知らせします。



産業遺産学会顧問

玉川 寛治

(たまがわ かんじ)

専門は産業考古学、繊維技術史。特に明治初期の日本の綿糸紡績技術史や繊維技術者について研究している。1957年東京農工大学繊維工学科卒業後、大東紡織に入社。主に技術研究・商品開発に携わる。1994年海外経済協力基金(OECF)の委嘱によりキルギス共和国の羊毛産業の実態などを調査した。著書に『製糸工女と富国強兵の時代 生糸がささえた日本資本主義』など。

倉敷市
歴史資料整備室室長

山本 太郎

(やまもと たろう)

専門は日本近世史。特に倉敷代官役所管下の幕府領地や江戸時代の倉敷の町の研究をしている。1987年東京大学文学部卒業後、倉敷市に奉職。1990年より市史編纂を担当。2008年岡山大学大学院文化科学研究科博士課程修了。2020年4月より現職。博士(文学)。
著書に『近世幕府領支配と地域社会構造—備中国倉敷代官役所管下幕府領の研究』など。



就実大学非常勤講師

小西 伸彦

(こにし のぶひこ)

専門は産業考古学と鉄道史学。特に日本の近代産業、河川改修・干拓・紡績・鉱業の歴史と産業遺産、また鉄道敷設史を調査・研究している。
1981年香川大学経済学部を卒業後、天満屋や大原美術館などの勤務を経て、2019年より現職。
著書に『鉄道遺産を歩く 岡山の国有鉄道』『みまさか鉄道ものがたり』など。



野崎武左衛門肖像 公益財団法人竜王会館蔵

シンポジウム 近代岡山の偉人伝 殖産に挑んだ人々⑤

内海に白いダイヤを見た男 野崎 武左衛門

令和3年4月22日(木) 能楽堂ホール tenjin9



野崎武吉郎 公益財団法人竜王会館蔵

児島郡味野村(現倉敷市児島)の農家に生まれた野崎武左衛門。1827年、順調だった足袋の製造を突然止めて塩づくりに転向。味野・赤崎浜に塩田48畝を完成させる。その後、矢継ぎ早に児島半島や邑久郡などで160畝の塩田を造成。日本一の塩田王となった。一方で、岡山藩の命により福田新田の干拓に着手。その後も塩田開発技術を生かして干拓に励み、岡山藩きっての大地主となって苗字帯刀、5人扶持を許された。

家督を継いだ孫の武吉郎は業界の取りまとめ役としても活躍し、事業をさらに生成発展させていく。晩年、所有する塩田は約200畝、耕地・宅地は約600畝にも及び、塩田地主としては全国1位、耕地地主では近畿以西3位となった。1890年から貴族院議員を務めた武吉郎は家訓に従い、生涯を通じて公益性のあるものに積極的に寄付。人材を育て、困窮する民を救済するなど社会貢献にも励んだ。

シンポジウムでは武左衛門らの生涯や思想のほか、特別調査チームが2年前から続けている10万点に及ぶ野崎家の業績史料の解析結果も明らかにされる。



野崎浜塩田(明治時代後期) 公益財団法人竜王会館蔵

出演

ナイカイ塩業株式会社社長

野崎 泰彦

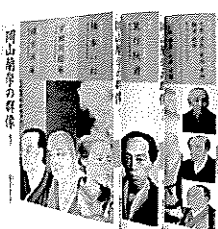
大阪大学大学院教授

飯塚 一幸

岡山大学大学院講師

東野 将伸

絶賛発売中!



「岡山蘭学の群像 1・2・3」

定価 1・2 本体 1400円+税
3 本体 1600円+税



「慈愛と福祉 岡山の 先駆者たち 1・2」

定価 本体 各1600円+税